

幼稚園・保育所 指導者・保護者向け

監修

聖徳大学 児童学部児童学科
教授 原本憲子

幼い命を守れ！ どう教える「避難の方法」

幼稚園、保育所の防災対策



企画意図

2011年3月11日の東日本大震災。津波に襲われた岩手県釜石市のある幼稚園では、職員と帰宅していた園児の数名が、津波避難所ではなかった「防災センター」へ避難し、津波にのまれ亡くなりました。また一方では、日頃から学校で防災訓練をしていた小中学生が率先して高台に逃げ、それに導かれるように避難して難を逃れた幼児たちも大勢いました。災害発生時に最善の行動ができたかどうか、生き延びるための決め手になったのです。いざというとき、より適切な判断をするためには、幼児でも自分を守ろうとする意識や態度を日頃から身につけておく必要があります。しかし、身体的にも精神的にも未熟な状態にある幼児に、防災力を身につけさせることは簡単なことではありません。

そこで本作品では、幼稚園や保育所の指導者向けに、災害発生時、幼児がすぐに身を守る行動ができるようにするためには、日常生活のなかで、どのような指導の工夫が必要なのかを紹介していくものです。

幼稚園・保育所 指導者
保護者向け

幼い命を守れ!どう教える「避難の方法」 幼稚園、保育所の防災対策

作品の概要

■建物の中を安全にする

幼児は、自分で自分を守る力が、まだ十分ではありません。そこで、幼稚園内では、いざというときに備えて、室内が危険にならない工夫が、まず必要です。①落下すると危険なものを棚の上におかない ②出口を塞がない ③ピアノは床や壁に固定する ④棚やロッカーは壁に固定する

■地震の揺れに備える

ある幼稚園が行っている防災訓練を捉え、そのポイントを説明します。幼児に自分の身を守る力をつけるには、避難訓練による基本行動の指導と、日常生活の中で繰り返し行う歩く力や、聞く力を高める指導が大切です。「ダンゴ虫ポーズできるかな」や「ニンジャの修行」といった指導には、幼児が楽しみながら基礎体力や集中力、判断力を高める工夫がされています。

■地震の後の火災から避難する

火災からの避難に備えるには、「避難場所は複数考えておく」「避難場所にたどり着ける道順も複数考えておく」「最悪の想定をして避難訓練をする」ことが大切です。「ならびっこ」「くつ鬼」(ゲーム)など、幼児が楽しめて防災につながる工夫がされている指導を紹介します。

■津波から避難する

宮城県気仙沼市のある保育所では、東日本大震災発生時、71人の幼児と10人の職員がい

ましたが、月1回の避難訓練や、対策マニュアルを周知徹底していた結果、全員無事に避難ができました。当時の園長に、緊迫した津波避難時の様子、この体験から得た教訓を語ってもらいます。

■次の大地震に備えて一

近い将来、最大18メートルの津波が来るのではと想定されている和歌山県串本町。海岸に近いある幼稚園では、およそ50人の園児が、高台へダッシュで避難する訓練を毎日続けています。こうした日常活動の積み重ねが、自分の身は自分で守ろうとする幼児の育成につながるのです。

監修	聖徳大学 児童学部児童学科 教授 原本 恵子
企画・制作統括	高木 裕己
脚本・監督	川崎 けい子
撮影	中村 賢二郎 / 高橋 哲也
イラスト	平島 佳奈
ナレーター	まさき せい
コーディネーター	斎藤 晃顕
制作・著作	株式会社映学社

■ライブラリー価格 本体 ¥65,000 + 税

■学校価格(幼稚園・保育所) 本体 ¥33,000 + 税

■VHS・DVD【カラー・26分】

■2014年・映学社作品



EIGAKUSYA CO.,LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-7-8らんざん5ビル
TEL: 03-3359-9729(代表) FAX: 03-3359-4024
http://www.eigakusya.co.jp/

●お問い合わせ、お買い上げは……